学びスクエア　NIE 考えるいま・未来

情操ゆたかにする効用も

新聞を読むことの教育面での効果を考えるとき、①ＳＤＧｓをふくむ時事、すなわち現代の社会事象に関する知識がつくこと②読解力や思考力をつける一助になることが挙げられるにちがいありません。①は新聞の使命の「１丁目１番地」がニュースを伝えることである以上、論をまたないでしょう。②も新聞記事を読んで理解に努めることを踏まえれば明白です。ただし、前提条件はあります。継続して読み、かつ精読することです。

このほかに有用・有益な点は新聞にないのでしょうか。

この夏、埼玉の県立高校生と交流した際、「新聞には『情操』をゆたかにする記事も日々ちりばめられているので注目を」と伝えました。「情操」とは「美しいもの、純粋なもの、崇高なものを見たり聞いたりしてすなおに感動する、豊かな心(の働き)」（新明解国語辞典）の意です。

若い先生のなかにも同様のアプローチでＮＩＥを実践している方々がいます。たとえば「心に残ったことば」「感動したことば」を新聞から抜き出させて、その理由を書かせるといった取り組みです。

こうした視点とシンクロする文章に思いがけなく出合うこともあります。最近では、体操の内村航平選手が東京五輪に唯一出場した鉄棒で予選落ちしたことを報じる記事を読んだ生徒の感想が印象に残っています。記事中で内村選手は「失敗したことがない技で失敗する。これだけやってきても、まだ分からないことがある。おもしろさしかないですよね」と語っています。敗れてなお競技の「おもしろさ」を感じとる姿に五輪個人総合２連覇という偉業の根源をみて感動した旨がつづられていて、思わずハッとさせられました。

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。